

第 27 回 こくど会総会報告

国土 OB 会総会は 45 名の出席者を迎えて日本青年館で開催されました。開会挨拶に次で、お知らせいただいた 12 名の物故者に黙祷を捧げました。大谷会長の挨拶に続き、OB 会の新しい体制に伴い今回退任する旧理事へは出席者の拍手で今までのご苦勞に謝意を贈りました。

新規入会者 14 名の紹介、会務報告は苧坂幹事より収支報告がなされました。

懇親会は、工藤社長以下 5 名の役員に出席いただき、賑やかな時間を楽しみました。

■ 大谷会長挨拶

昨年末の政変で安部新内閣が生まれ、不況からの脱却を願っています。国土 OB 会は、昨年役員に新メンバーをいれて刷新を図っていますのでご理解いただきたいと思います。

会報で知らせしました通り、会の体制を大幅に変え、地方 OB を包含した全国的ネットにするために、理事は地方 OB で組織します。入会金・年会費を無くし、誰でも入会できることとします。情報交換には、パソコンのホームページを立ち上げ、誰でもがリアルタイムにアクセスして投稿できる方法とします。パソコンが不得手なメンバーには、しばらくは従来通り紙面での情報伝達も行います。総会は 3 年毎とします。提案を戴いた会の新しい名称も「こくど会」を選ばせてもらいました。

■ 総会にて会社現況説明 経営企画本部企画室 野村茂生室長より

昨 83 期は施工ミスや事故、赤字工事などが重なり、最終で 30 億円近い損失で多方面の方々にご迷惑と心配をおかけしお詫び申しあげます。2 期連続の赤字は許されないとスタートした今期の受注は、今のところ好調に推移し、2 月段階で計画の国内の工事で 550 億円、計画の 90% の進捗で、人が足りなくて突っ込めない状況です。震災復興の本格的な進展と政権交代の影響、東北と名古屋の進捗が高く一時落ち込んでいた中部圏経済などの復活を実感しています。笹子トンネル天井崩落事故、東南海地震被害予測など防災・減災の意識の高まり、インフラの保守の重要性認識の高まり、国土強靱化政策で建設業界に良い方向が見込みこまれると期待しています。

今期工事の中身の変化では、土木では東北の除染・瓦礫処理工事、ツイスター工法での土壌改良、当社の特色であった土工事では、滋賀の創価学会墓苑工事・工業用地・住宅用地造成など比較的規模の大きな工事が採れています。加えて自然エネルギーのメガソーラ設置工事など新しい工事が増えています。建築については幅が広がり、耐用年数が来て更新時期にあるクリーンセンター・廃棄物の焼却場が増え、現在も 3 件の大型工事です。建設需要の回復で人手の不足、資材の上がり基調などが不安要素です。

開発を始めとする収益の多様化では、開発の 10%が定着してきました。直近では、横浜の大規模な青葉霊園、環境では土壌の浄化、NLDH（陰イオン吸着）による水の浄化材料の販売に努め、製造プラントを厚木工業団地に建設し稼動しました。昨年定款を変えて発電売電事業を加え富里に 2 メガワットのプラントの建設を進め、農産物の製造販売植物工場では大学との共同研究を進めています。東北での土砂の採取事業は、松島町の山で採取して復興事業に来期以降の需要が見込まれます。これら新しい事業の定着化に務め企業の安定化を目指しています。以上、概況説明といたします。

■ 懇親会にて工藤睦信社長より

昨年は、かつて無い赤字を生み、株主への減配、社員給与・ボーナス減額を余儀なくするなど、ご迷惑ご心配をおかけし申し訳なく思っております。その大きな原因は施工業者として恥ずかしいことに、工事の施工ミスなどが頻発しました。そのため、本社、支店を含めて現場の管理あり方を強化してまいりました。今期は何とか期初業計の決算数値を達成できる見込みです。受注は東北の震災復興と政権交代によるアベノミックス効果で近来に無く好調です。5 月末の決算まで 2 ヶ月を残して期初業計を達成できる勢いです。建設需要が急に拡大したので供給力のショート、労務や資機材の高騰、社員の不足などの問題が深刻になっています。しかし、いままで長い間仕事が無かったことから考えれば切り抜けていけると、社員一同頑張っただけです。

今年の新入社員は 24 名入社し、受注も好調で社員のモチベーションも上がっています。今までは現状維持が精一杯でしたが、業績の拡大に向けて頑張っただけです。

毎年ここで不景気な話ばかり続き、今日は少し良い話ができほっとしています。今後ともよろしくご指導のほどをお願い申し上げます。

こくど会幹事 和田航一